

惑星移住

どんな生物連れて行く？



オンラインでつないだJAXA宇宙教育センター職員の進行で授業に取り組む生徒

玉野高は、「理想の惑星を考えよう」をテーマにJAXA宇宙教育センター（相模原市）とオンラインで結んだ特別授業を行った。受講した生徒は、地球からの移住にどんな生物を連れて行くべきかという宇宙規模の発想で、持続可能な社会が問われている自分たちの未来について考えた。

JAXA宇宙教育センター協力 玉野高で特別授業

玉野高は、「理想の惑星を考えよう」をテーマにJAXA宇宙教育センター（相模原市）とオンラインで結んだ特別授業を行った。受講した生徒は、地球からの移住にどんな生物を連れて行くべきかという宇宙規模の発想で、持続可能な社会が問われている自分たちの未来について考えた。

持続可能な社会思案



理想の惑星に連れて行く生物を考える玉野高の生徒たち

浮かべ、しょうゆを作るのに必要な大豆やこうじ菌を選ぶなど工夫した。

2年山口ユキオさん（17）は「肉や魚を持って行こうとしたが、費用や飢餓のない社会にすることを考えて植物を多く選んだ。宇宙飛行士の話を聞いて宇宙に行ってみたいと思った」と話した。

授業は、同高の藤田学教諭が昨年2月、JAXAから派遣され、米航空宇宙局（NASA）ジョンソン宇宙センターのスペースセンター・ヒューストンであったワークショップに参加した縁で実現した。（内田貴大）